中国語と書の日中文化交流情報誌

錦華通信 Vol.6

発行日：2017/3/15
発行所：福岡漢語学院・錦社
福岡市中央区平尾2-3-15
☎092-522-9587
http://www.tigaohanyu.com

回顧志愿者活动

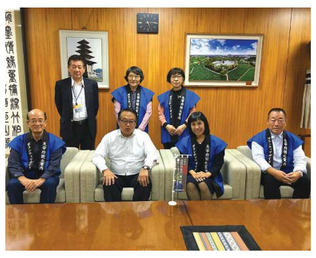
光阴似箭，日月如梭。汉语志愿者们在西铁太宰府站至天满宫的参道上，已经奋战了一年有余（自2015年10月11日开始活动），先后接待了中国（大陆，香港，澳门，台湾）、韩国、新加坡、马来西亚、美国、意大利等各国前来参观游览的观光客人3千5百人次以上。每次活动中，志愿者们都以亲切的笑脸，热情的接待，详细的说明，温馨的提示赢得了众多观光客人的好评，更把日本国民敞开心扉迎接世界各地朋友的心声带给了来访的每一位客人。在一年多的活动中，志愿者们不仅为前来观光的客人们介绍了天满宫的历史、文化和景观，而且对客人们的各种突发情况积极对应，防止了意外事故的发生。志愿者们深深感到：观光客人的满意笑容，发自内心的感谢话语和情不自禁的拥抱是志愿者活动的最大动力。在和客人们挥手告别的那一刻，夏日的酷暑、冬天的寒冷都化为乌有，只有那跨越国界的暖暖友情永远留在了心间。

2016年10月21日，志愿者活动负责人及居住在太宰府市的部分志愿者前往太宰府市役所，向芦刈茂市长汇报了一年来的活动情况，受到了市长先生的高度赞扬和感谢。

11月23日，居住在福冈市、春日市、那珂川町、太宰府市、筑紫野市的部分志愿者欢聚在中国驻福冈总领事馆，受到了何振良总领事、丁剑教育领事的亲切接见，聆听了何总领事多方面的鼓励和期望，从而更加坚定了做好志愿者工作的信心，力争每一个致力于中日友好的有志者都成为友好桥梁的可靠基石。

志愿者活动绝非一朝一夕之事，活动的开展也不是少数人所能及的。我们一定要保持克服各种困难的信心和勇气，在平凡的日子里做出不平凡的事。同时也发自内心地欢迎更多的有志之士加入我们的行列，（请不必多虑自己的汉语水平，事前学习、实地见习、尝试实习等阶段可以使您的汉语水平迅速提高，早日独当一面。）敬请与福冈汉语学院联系。地址见本通信第一页上方或第4页下方，电话、邮件均可。欢迎您的早日到来！

▲中国駐福岡総領事館表敬訪問の様子



▲太宰府市役所表敬訪問の様子

ボランティア活動を振り返って

光陰矢の如し、歳月慌しく流れて行く」。中国語ボランティアの皆さんは西鉄太宰府駅から天満宮の参道、本殿前でもう一年以上（2015年10月11日から活動スタート）頑張りました。中国（大陸・香港・マカオ・台湾）、韓国、シンガポール、マレーシア、アメリカ、イタリアなど各国から来られた観光客を延べ3500人以上迎えました。毎回の活動で、ボランティアの皆さんはいつも親切な笑顔、心のこもったおもてなし、詳しい説明、温かいアドバイスで、たくさんの観光客から好評を得ることができました。更に日本国民の、心を開き世界各地の友人を歓迎する気持ちを、訪問に来られた一人ひとりのお客さんに伝えました。一年余りの活動で、ボランティアの参加者は観光客に天満宮の歴史、文化と景色などを紹介していただけではなく、お客さんの急な事態にも対応し、事故発生を防ぐために役に立ちました。ボランティアの皆さんは、観光客の満足した笑顔、心からの感謝の言葉及び思わずのハグは、ボランティア活動の最大のモチベーションであるとしみじみ感じさせられています。

お客さんと手を振ってお別れしたあの時に、夏の酷暑、冬の厳寒は全て消えてしまい、国境を超えたあの温かい友情だけが永遠に心に残っています。

2016年10月21日、ボランティア活動の責任者及び太宰府市に住んでいる一部分のボランティア活動の参加者は太宰府市役所に表敬訪問し、芦刈茂市長さんに一年来の活動状況について報告し、市長さんから高い評価と感謝をうけました。

11月23日に福岡市、春日市、那珂川町、太宰府市、筑紫野市に住んでいる一部分のボランティア活動参加者は中国駐福岡総領事館に楽しく集い、何振良総領事、丁剣教育領事から親しい会見を頂き、何総領事の多方面の励ましと期待を聞きました。表敬訪問によって、参加者の皆さんはボランティア活動をますます向上させる信念を堅め、日中友好に力を注ぐ有志者の一人ひとりは皆友好橋の力強い礎石になるように頑張ろうと決意しました。

ボランティア活動は決して一朝一夕のことではありません。活動の展開は少人数でできることでもないのです。我々は常に様々な困難を克服する自信と勇気を持って、平凡な日々に於いて平凡ではないことをやらなければなりません。同時に更に多くの有志者が我々の列に入ることを心から歓迎します。（ご自分の中国語のレベルを心配しなくてもいいです。事前の勉強、現場の研修、先輩についての実習など各段階の訓練は貴方の中国語のレベルを迅速に高めさせられ、早く活動に参加できます。）どうぞ福岡漢語学院に連絡してください。連絡先は本通信1頁の上或いは4頁の下に書いてあります。電話とメールはどちらでも結構です。お待ちしております。

お知らせ

春夏一日集中講座を開催！

▶普段の勉強がなかなか集中できない
▶溜まった質問について納得できる答えが得られない
▶HSK・中検の前にもっと頑張りたい
……などの思いを持っている方へ朗報！

“百闻不如一见”
「百聞は一見にしかず」
ぜひ福岡漢語学院へ
体験してみませんか？

＊本学院は5月、6月の間、
日曜日を利用して一日集中講座を行います。
クラス分けは次の通りです。

●初級講座（中検4級、HSK1～3級程度）
日時：5月 21日 午前10時～午後3時 費用：3,000円
●中級講座（中検3級、HSK4級程度）
日時：5月28日 午前10時～午後3時 費用：3,000円
●上級講座（中検2級、HSK5級以上程度）
日時：6月 4日 午前10時～午後3時 費用：3,000円

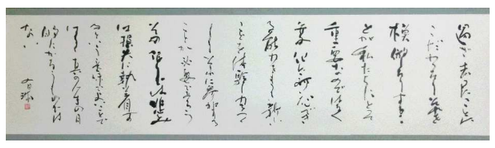
＊昼食12時～1時（＊希望者のみ講師と中華弁当を食べながら中国語の勉強などについて語り合う。）
＊定員：各講座12名（先着順・定員になり次第、締め切ります。）
＊申し込み方法
電話：092-522-9587／携帯：090-1197-9045
FAX：092-929-0208
E-mail：hanyuxueyuan303@gmail.com

おめでとうございました

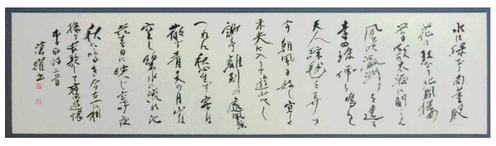
第48回九州かな書道協会展（本会関係分）

会期：2017/1・17（火）～22（日）
会場：福岡県立美術館

◆理事の部：準大賞・岩佐有琳
推薦賞・成吉滄耀、古賀早智
◆会員の部：朝日新聞社賞・大石碧都

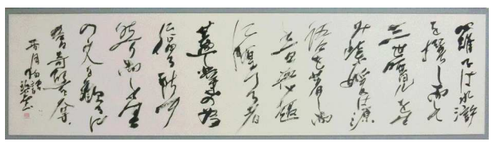


●【準大賞】岩佐有琳



●【推薦賞】成吉滄耀

●【推薦賞】古賀早智



●【朝日新聞社賞】大石碧都

世界中どこでもサポート
国内バスツアーもお手伝いする
株式会社 アジアネットツアー
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-6-1
TEL（092）436-3678・FAX（092）436-3677

書画用筆・墨・硯・紙・色紙・短冊・料紙・御香
和文具・書籍・額・表装・貸額・展覧会の搬入出
平助筆 復古堂
〒810-0003 福岡市中央区春吉3-3-9
TEL（092）761-5122・FAX（092）761-8367

WEBサイト制作・保守・管理・各種印刷物・デザイン
URL: http://www.cuoore.co.jp
株式会社 クオーレ
〒810-0013 福岡市中央区大宮2-6-12
TEL（092）401-2011 info@cuoore.co.jp

福岡漢語学院
住 所：〒810-0014 福岡市中央区平尾2-3-15-303
電 話：092-522-9587 FAX：092-929-0208
E-mail：hanyuxueyuan303@gmail.com

書法研究団体「錦社」
住 所：〒818-0053 福岡県筑紫野市天拝坂4-10-9
電 話 / FAX：092-929-0208
E-mail：hanyuxueyuan303@yahoo.co.jp

千字文の世界（6）

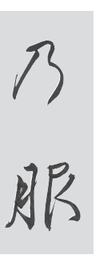
●釈 文　shǐ zhì wén zì　nǎi fú yī shāng
始制文字、乃服衣裳。

●読下し文　はじ もんじ せい すなわ いしょう ふく
初めて文字を制し、乃ち衣装を服す。

●現代中国語訳　shǎng gǔ jīng guò jié shéng jì shì qì kè jì shì
上古经过结绳记事，契刻记事，
zhì huáng dì míng cāng jié zào zì wén zì de chǎnshēng cù jìn le jiāo liú huáng dì yòu
至黄帝命仓颉造字，文字的产生促进了交流；黄帝又
míng qí qī léi zǔ yǎng cán gǔ dài xiān mínchuán qì le zhē shēn bì tǐ de yī shāng
命其妻嫘祖养蚕，古代先民穿起了遮身蔽体的衣裳。

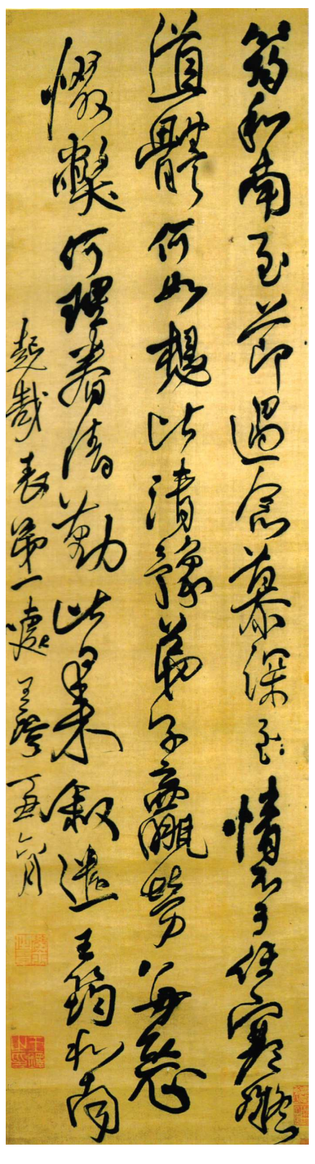
●日本語訳　大昔は縄を結んだり刻んだりして事柄を記録していたが、黄帝になって蒼頡に文字を作らせ、文字ができたことでコミュニケーションが益々盛んになった。また、黄帝は妻の嫘祖に蚕を飼わせ、古代の人は身に纏う衣服を着始めた。

◎王羲之集字・行書千字文（釈文）始制文字乃服衣裳



◎川波猗嶂臨

◎川波猗嶂臨



◎王鐸・臨王筠寒凝帖軸（上海博物館蔵・絖本墨書・縦一八六・八×横五〇・七㎝）
（釈文）筠和南至節過念。慕深至情不可任。寒凝／道體何如想。比清豫弟子贏勞。毎惡／惙奚何理耆。清勤比日來敘遣。王筠和南／起哉表弟一嚏。王鐸丁丑六月

※王羲之（Wáng Xīzhī、303年～361年）
中国東晋の政治家・書家。字は逸少。右軍将軍となったことから世に王右軍とも呼ばれる。本籍は瑯琊郡臨沂県（現在の山東省臨沂市）。魏晋南北朝時代を代表する門閥貴族、琅琊王氏の出身である。

日中書画探訪の旅（6）川波猗嶂

王鐸（1592～1652年／明末清初）ほど、戦後の書壇に影響を与えた書を残した作家はおるまい。戦後書が日展に参加するや否や、宋代以前の書が主流であった戦前に対し、王鐸をはじめとし、張瑞図（1570年～1640年）・倪元璐（1594年～1644年）・黄道周（1585年～1646年）・傅山（1607年～1684年）等、所謂明末ロマンティシズムを標榜する書風が戦後の書壇を席巻した。従来の古い体質を連想させる「書道」という呼び方に反対し、日展第五科「書」とすることを強く主張された西川（寧）先生の思いもあり、新しい書は「壁面芸術」「造形芸術」として「自己表現」という一面を強く押し出してきた。王羲之（303年?～361年?）や蘇軾（1036年～1101年）・黄庭堅（1045年～1105年）等それまで横巻形式（主に残っている作品の多くが書簡である故）の書が多かったのに比べ、建物の建築様式の変化に伴い、壁にかけて鑑賞するというスタイルが南宋の呉琚（生卒年不詳）辺りから見受けられるようになり、この明末という時代はひとつのピークを迎えることになる。中国家屋の高い天井に合わせて数メートルにも及ぶ長条幅に、悠揚迫らざる運筆で朗々と詩情を謳い上げる王鐸の書は、正しく壁面芸術の花形であろう。

今から30年ほど前に初めて中国を訪れた時、昔の上海博物館（当時は赤煉瓦造りの趣のある建物）にて館長さんのお取り計らいで、蘇軾や王鐸の書を目の前で直に見せていただく機会に恵まれたことがある。見た途端、墨があまり濃くなく油っこさが少しも無い、ある種の清々しさに驚かされたことが、昨日のことのように思い起こされる。

夏季集中講座を受講しての感想

2016年7月から8月にかけて、夏季集中講座を行ないました。留学生との会話講座（2時間）を除いて、初級・中級・上級はそれぞれ5時間にわたって、参加者全員で頑張りました。次に参加者の声を紹介します。

数多くの方が参加できるように、また6月、11月の中検に合格できるように、今年から5月の中旬から6月初旬まで、4級・3級・2級レベルの集中講座を開くことになっています（準4級、準１級、1級の方はお問合せ願います）。詳しいことは4頁のお知らせ欄をご覧になって下さい。

皆さんのご参加をお待ちしています。

留学生と会話練習講座

●川原　由紀子

入門コースの生徒に「留学生と会話練習講座」のお知らせがあった。中国語を習い始めて４ヵ月なのに、留学生と会話なんてとんでもない、と思ったが、何事にも積極的な李先生の「大丈夫!」の言葉で参加決定。

当日の参加者は中国語の習熟度も年齢もバラバラの面々が15、6名。自己紹介や留学生の方への質問が始まり、自分の予習で他の方々の声が耳に入らないまま私の番が廻って来た。冷汗をかきながら、李先生の助け舟を頼りに前もって準備していた文章を、何度も言い直し、何とか読み終えたが、とても通じたとは言えない有様でションボリ。しかし、自分の番が終わってからは、皆さんと楽しく会話がはずみ、中国の事も少しわかって楽しい2時間だった。

この頃は電車の中などで、中国語が耳に入ると、つい聞き耳をたててしまい、「ウォーチー」と聞こえて、どこかに行くのかな？何か食べるのかな？どっちだろう？などと、何となく近寄って怪しいおばさんになってしまう。少しずつ語彙を増やし、発音練習をして、次回は皆さんに通じる言葉を喋りたい……との夢を持った夏の一時だった。

●笠　美奈子

今回、私は7月30日に行われた留学生と会話練習講座に参加させて頂きました。日頃、個人授業なので、このように皆さんと一緒に学習する機会を楽しみにしているのですが、今回の講座では、初級から上級の十数名の参加者がいらっしゃる中、あろうことか、日本語通訳という大役を仰せつかり、気を失わんばかりの緊張感を味わう事となりました。

自分が聞いた中国語を、自分だけがなんとなく理解するのではなく、正確に、かつ迅速に，さらに話の内容全体をまとめて人に伝えなければならない事の難しさを痛感させられましたが、私にとって、今回の体験は、これから中国語の学習を続けていくうえでの大きな励みにもなりました。

このような機会を与えて下さった李先生には本当に感謝の気持ちで一杯です。

上級講座

●遠山　幹男

今年の夏も夏季集中講座が開催された。

去年参加して見て収穫少なからずと思っていたので、今回も喜んで参加を申し込んだ。講義は参加者8人の自己紹介から始まり、10時から15時まで、講義の内容としては11枚の資料に基づいて、主に副詞と接続詞、慣用句であり、みっちりたたき込まれた。

その後模擬試験であった。講義は短い昼食休憩をはさみ、緩みなく進み、より多くの文法を詳解しようとする先生の熱意をひしひしと感じ乍らも、私はそれについて行くのに必死だった。

ただ最後の模試の時間が足りなくなったのは、ちょっと残念だった。とは言え、それでもこの様に有意義な集中講座が年１回しか開催されないのはとても惜しい。冬季・春季の集中講座があってもいいのではないだろうか?!

初級講座

●佐藤　いつ子

「有気音と無気音について言える人?」先生の質問から始まった夏季集中初級講座は、私にとって、とても有意義な時間となりました。

冒頭から、基礎がまるで出来ていない自分を、改めて思い知らされました。発音については、漠然とは理解していたつもりでしたが、正直言って「まあ、良いか」と、なおざりにしたまま過ごしてきていました。発音からもう一度しっかりと練習しなければと反省しました。

数字の勉強の時には、「1150元」や「1015元」を読む時に「一」を入れることを、また、時間や歳を言う時「両」を使い「二」を使わないということなど、教わっていながら、すっかり忘れていました。

また、単語を覚える時、一声だけの動詞、二声だけの動詞、等と四声を意識して覚えていく方法も学びました。

副詞、介詞、量詞、疑問詞、文法等々たくさんのことを一気に学び、三時に終わった時は、頭がクラクラ、軽い疲れを感じました。一昨年も初級講座を受け、今年は少し楽だろうと臨んだのですが、先生が厳しくなられたのか、それとも、私の脳の老化が加速したのか?とは言え、心地よい疲労感でした。

先生がおっしゃった「毎日二時間」は無理としても、「毎日コツコツ」が語学学習で一番大切なことだとも感じました。「お互いに頑張ろうね」と友達と決意しあい、福岡漢語学院を後にしました。

●竹下　鈴子

私は8月7日夏季漢語集中講座「初級」に出席いたしました。ヒヤリングが苦手なので、会話がうまく出来ず、なかなか上達しません。講義を受ける中で、勉強方法が見出せないかと参加させて頂きました。

李先生が教えて下さった中で、耳で聞いたら必ず自分でも声を出して繰り返し言うこと、1日2時間は中国語の勉強をするように、毎日毎日の積み重ねが大切ですとおっしゃった事が強く印象に残っています。

自分の努力の足りなさを痛感し、とにかくこつこつと時間を見つけて基礎から再出発だと自分自身に言い聞かせました。

中級講座

●田島　哲生

先ず、「発音」ですが、二声は日本人は苦手です。意識して練習すると出来るので、日頃の練習が大切であると認識しました。

「リスニング」については、短い「听力」は余り問題は無く、あるレベルまで達成していると確認できました。長文の「听力」はなるべく仮名でも良いから音声をメモする様に老師から助言があり、そのお蔭で、従来より解答が出来る様になりました。

「翻訳」（日本語から漢語へ）は、漢語の音声での文章は浮かんで来ているのに、簡単な単語が書けないことがあります。日頃の漢字を書く練習が不足していることを再認識しました。簡単な単語から書く練習を更に続けて行きたい。

「文法」は、日頃余りまとめて勉強する機会が無いので、貴重な機会となりました。もう一度復習して行きたい。

集中講座に参加して、改めて初心に戻って、「四声を意識する」「日頃の学習時間を掛けただけ、どんどん上達する」「自分の弱点を知る」ことが大切だと考える良い機会となりました。

漢語を学習する上で、大変参考・刺激になり、ありがとうございました。